さんけん新聞

発　行
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
☎090・
3421・3046

オオサンショウウオ生息調査 ５回実施

25匹捕獲 データ記録

安佐動物公園を見学
交雑種の課題聴く

コロナ禍のため休止していたオオサンショウウオの生息調査の再開を前に10月3日、安佐動物公園でチュウゴクオオサンショウウオとの交雑の課題について説明を受けた。三段峡などで実施した5回の調査では25匹を捕獲、個体データを記録した。

頭部幅が13センチある捕獲された大型のオオサンショウウオ

同園を見学した本宮炎理事長らは、オオサンショウウオ飼育担当者の田口勇輝さんから、外鰓（がいさい・体外に突出しているエラ）がある幼生と跡が残る幼体との違いを聞き、チュウゴクオオサンショウウオとの交雑の課題について説明を受けた。交雑種は今年七月、同園と広島大学が広島市佐伯区の八幡川で発見した。

三段峡や戸河内、加計地区の河川で実施した生態調査には本宮炎理事長や広大さんけん部の大本武さん、前田遥紀さんら延べ二十六人が参加した。成体二十三匹、幼体二匹を捕獲して体長や体重、傷の有無などの個体データを記録し、マイクロチップを埋め込んで放流した。交雑が疑われる個体は見つからなかった。

加計地区の夜間調査では、約一時間で捕獲した五匹すべてが二キロを超える大きな個体だった。魚影も濃く、三段峡付近では見られない魚類も目視された。

大本さんは「天然記念物のオオサンショウウオをはじめ、珍しい生き物が大変多い」と驚いていた。

広島ホームTV取材

調査の様子を二十三日、広島ホームテレビ「地球派宣言」が取材し、オオサンショウウオの生息環境を取り上げた。同社ホームページで公開している。

中学生、流川さんけん部が汗
行楽シーズン前に探勝路清掃

赤滝手前の探勝路を清掃する中学生

秋の行楽シーズンを前にした十月、三カ所の探勝路が清掃、整備された。

安芸太田中学校の全生徒四十七人は二十五日、地域ボランティア活動として正面口―赤滝間で落ち葉やゴミを片付けた。清掃プランは生徒会が主体になって作成した。横山莉乃生徒会副会長は「みんなで成し遂げた達成感がある」と振り返った。昨年はコロナ禍のため中止した。

同日、「流川さんけん部」のメンバーら九人は水梨口―三段滝間で土砂を撤去した。数年前から通行止めになっていた三段滝展望台から上流へ向かう階段の土砂を撤去、通行禁止の解除を町役場へ申請した。

さんけん会員など二十二人は十六日、餅ノ木口―聖湖間を整備。安芸太田町民の橋本賢さんはチェンソーを持参し、倒木を処理した。

長引く三カ所の通行止め
黒淵荘、正面口事業者に大打撃

三段峡内は現在、三カ所が通行止めになっている。

下餅ノ木口―三段滝間は二〇二〇年の豪雨以降、郭公岩付近の上部岩盤に亀裂が見つかり、復旧の見通しは立っていない。横川口―猿飛間も探勝路の危険な状態が続いている。

正面口―黒淵間は二十一年夏、ぐるの瀬で崩壊が発生し、開通目前だった今年七月に赤滝―庄兵衛岩間で落石があり、上部岩盤に亀裂が確認された。復旧工事は来春以降からで、長期間不通になる。

黒淵へは水梨ルートがあるが黒淵荘、正面口の飲食店、駐車場への打撃は大きい。黒淵と猿飛の両渡舟は十一月二十三日まで運行を予定している。

学校間交流事業
最多四校受け入れ

太田川学校間交流事業が十月二十一日、廿日市市立吉和小学校の三、四年生十三人が参加して開かれ、水梨口―三段滝間で自然観察をしながら歩いた。今年度の同事業は過去最多の四校を受け入れ、川体験のほかにトレッキング体験を新たにメニューへ加えた。

同行した吉和地区の地域支援員の深瀬憲司さんは「吉和でも同様の取り組みをしたい」と話していた。

一口メモ

▼花に感謝

天候の影響もあるのだろうが山野草は、年によって花の数が違う。今年の秋はダイモンジソウ、ジンジソウ、キツコウハグマがたくさん咲いてくれた。コロナ禍の終息は見通せないうえ、豪雨の度に起こる崖崩れで探勝路が不通になって、気持ちは沈みがちになる。厳しい自然を乗り越え、小さな花を咲かせる山野草たちの逞しさ、可憐さに元気をもらう。

三段峡の鳥たち ⑫

カワアイサ

名に反し海ガモ類

三段峡入り口周辺の川やダムで見られる冬鳥。オスの冬羽は頭が緑光沢の黒、首から下はピンクがかった白色、背は黒で全身がくっきり色分けされている。嘴と足はきれいな赤で、なかなかの洒落男だ。それに引き替えメスは頭部が褐色で、他の部分は灰褐色の地味な装いだ。

カモの仲間は水面や水中の餌を捕る淡水ガモ類と潜水して採餌する海ガモ類に分類されるが、カワアイサは潜水するので、海ガモ類に含まれる。頭を水中に入れて魚を探し、見つけると素早く潜る。

嘴の縁には歯のようなギザギザの突起が並び、獲物を逃さない構造になっている。体が大きく、大きな魚でも捕らえる。

国内では北海道で繁殖している。巣は樹洞に造り、六から十四個を産卵し、三十二から三十五日間、メスが抱卵する。カモの仲間の例外にもれず、オスは子育てに参加しない。ふ化するとすぐ地上へ飛び降り、メスと生活する。メスはヒナが自立する前に、見捨てるかのように他の場所へ移動する。残されたヒナは大きな集団になって成長する。

白黒くっきり洒落男 子育て不参加

九十年代、ウミアイサに比べると少なかったが、近年増えている。アユを捕る害鳥とされているが、アユが生きている夏から秋、冬鳥のカワアイサはいない。（上野吉雄）

次号からさんけんの松尾俊孝理事が、三段峡やその周辺地域の古い写真を読み解く「セピア寫眞帖」を連載します。

第5回 さんけん祭

12月11日（日） 11時～15時
三段峡正面口　参加費：1000円

地元産の食材を使った料理。椽餅づくりや楽しい企画をご用意!!

主催：さんけん　☎090-6078-0835（本宮宏美）